

Management Club Report

May.2023/Vol.245

Monthly Opinion 《機械技で精度を、人間業で深みを》

今月11日に配信いたしましたD☆STYLESメルマガVol.299は標題を『機械技・人間業』として、にわかに脚光を浴びております対話型AI である ChatGPT などを含むAI の著しい進化の受け入れや活用について、私の個人的な考えや思いを書きました。感情が先立ったのかつい力が入りまして、軽妙さが持ち味のメルマガらしくらぬ硬い文章の連続になってしまいました。来月前半のメルマガはグッと軽めに行こうと考えておりますが、今回のレポートは先のメルマガの硬さを引き継ぎ、歯科医院経営における AI の存在意義と不存在意義といった内容で綴ってみようと思います。メルマガ Vol.299『機械技・人間業』の続編としてお読みいただければ幸いです。

1

技術進歩も、生まれる陰もポジティブに捉える

『技』と『業』の違いを理解する

「機械技」と「人間業」、読み仮名をふりますと「きかいわざ」と「にんげんわざ」で、「技」と「業」は、漢字表記は異なるものの読みは同じです。パソコンのキーボードを「KIKAIWAZA」「NINNGENNWAZA」と打ち込みますと、既にその言葉を学習済みのパソコン君は「機械技」「人間業」と正しい漢字表記に変換して打ち出してくれます。

私はこの『機械技・人間業』という標題を思いついた時、私の頭の中にあった文字は『機械技・人間技』でした。意図するところは「機械の技術によって得られる成果と、人間の技術が生み出す価値の違い」について論じたかったからです。

ところが、そもそも「人間技」という漢字表記はないというのです。1495 ページにも及ぶ分厚い『類語大辞典』（講談社）を引きましても「人間業」はありますが「人間技」は出て来ません。ネット頼りで調べますと『記者ハンドブック・新聞用字用語集』（共同通信社）に、その辺りの違いが解説されているとあります。

実はその際物の用語集、当社にもあったのです。1956 年 11 月 1 日に初版が発行されたもので、手許にありましたのは 2016 年 11 月 1 日発行の第 13 版。

サイズは横 11.5 cm、縦 17.7 cm、幅 2.4 cm と新書版より少し大きい感じの 767 ページに及ぶ新聞記者向けの用字用語辞書で、新聞記事を書くに当たって求めら

